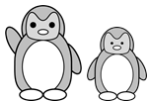
コラム
No. 113

金融資産について
～種類と特徴～

令和３年10月作成



数年前に老後 2,000 万円問題が世間を騒がし、昨今はコロナ禍により、将来への不安からか、家計の金融資産が増加傾向にあります。また、特にコロナ禍により、投資への関心が高まってきているとも聞きます。そこで、今回は代表的な金融商品とその特徴について簡単にお話しします。まずは主な商品とその特徴としては、下記の表のようになります。

種　類	流動性(換金性)	安全性(リスク)	収益性
預　貯　金	**高い**	**高い**	**低い**
株　　式	**やや高い**	**低い**	**高い**
債　　権	**やや低い**	**やや高い**	**やや低い**
投資信託	**やや高い**	**やや低い**	**やや高い**
保　　険	**低い**	**やや高い**	**やや高い**

預貯金とは銀行等の金融機関にお金を預けることです。預けた預金に対して利息収入を得ます。しかし、**銀行等にも破綻のリスクはあります**。銀行等が破綻した場合には一部を除く、元本 1,000 万円までの預金とその利息は保護されますが、それを超える部分については保護されないため、低いとはいえリスクはあります。ただし**資金を他の用途に使いたいときにすぐ利用できる流動性（すぐに現金化できる度合）の高さは最も高い**と言えます。

株式は証券市場に上場されているものと上場されていないものがありますが、ここでは上場されているもの、証券市場を通じで誰でも取引可能なものに限ってお話します。**株式とは会社へ出資したことによる権利**です。株式を保有することにより、企業の収益から**配当金を得る権利**が得られます。また、企業によっては株主優待等を実施している場合もあり、これらの経済的利益を受けることが出来ます。株式の価格は日々変動するため、**株価が上がれば、売却することにより値上がり益を得る**ことが出来ます。一方で、株式の価格には下落することもあり、**値下がりによって大きな損失を被ることもありますし**、**企業が倒産してしまえば、最悪株式の価値がゼロになってしまう**という大きなリスクもあります。

債権とは、主なものとして、国債・地方債・社債などがあります。証券会社等を通じて購入することが一般的ですが、企業等から直接購入する場合もあります。債権は償還期限が決められており、**保有期間中は利息を受け取ることが出来ます**が、期間中に売却等する場合には**株式ほどではないですが、価格の変動（値上がり・値下がり）リスクもあります**。

投資信託には様々な種類がありますが、共通するその仕組みとしては、**投資家から預かったお金をプロが運用して利益を上げ、その利益を分配する**というものです。ただし、あくまで資金の運用をするわけですから、**必ず儲かるというわけではなく、場合によっては損をすることもある**ので注意が必要です。運用の方法には様々なものがあり、株式に運用するもの、債権に運用するもの、外国株式に運用するもの、金などの商品に投資して運用するものなどがあります。また、**不動産に投資するものは REAT** と呼ばれます。

保険は、本来有事に備えるものであり、基本的に投資商品と考えるべきではありません（コラム No. 106、107 参照）。しかし、**保険商品の中でも、個人年金に関しては、将来受け取る年金を補完するものとして、長期の投資商品と考えることも出来ます**。特に国民年金しか受け取れない個人事業者や、給与が低く将来受け取れる年金が少ないことが見込まれる人は、長期の運用商品として有用ですが、**中途解約すると多くの場合元本割れ**します。